

【道端の自然】

～ アオバズクがやってきたけれど ～

2014年5月27日午後 アオバズクの親が一羽ケヤキで休んでいるのを発見。今年も遠くから渡って来たのだとほっとしました。

たいていの場合、来ているのを確認すると、しばらくは邪魔せずに子供たちの巣立ちの時期まではあまり訪問しません。なぜなら、関東南部ではおおよそ7月の20日前後に子供たちが樹洞から不思議そうな顔して出てくるからです。この頃に東京ではセミが一斉に鳴き出し、エサに困らない環境になるからだといわれています。

ところが今年は、最初の発見日以降いくら探しても親の姿を見ることはありませんでした。ただカラスの子供が甘えた声で親を呼ぶ姿が目立つばかり。多分アオバズクはカラスを嫌って営巣するのをあきらめたに違いないと推測していました。残念～

7月23日、未練がましくケヤキの木をあらゆる角度から舐めるように双眼鏡で見えていたら、<いた!!>。なんと一羽のアオバズクが奥の枝にとまっているではありませんか。考えられない事態でした。再びテンションが上がり、それから毎日のように見に行きました。親が一羽で樹洞を守るようにとまっている場合、見張



りをしている雄なのです。うまくいけばこれから巣立ちする可能性があるということです。

8月に入り、2週間経ちました。

2014年8月15日、親もいないしもう帰ろうと思いつつも、もう一度見ようとケヤキの奥を見た瞬間、なにかハイイロの塊が見えました。<いました!>雛が一羽いたのです。翌日の朝は2羽並んでいるのが確認できました。灰色のホワホワ胴体に黄色の丸い目。2011年は7月25日に巣立ちしましたが、今年は3週間おくれながら無事巣立ちできて本当に良かったと思います。

カラスの子育ての遅れ、異常気象、セミの登場の遅れなどなどアオバズクの行動の変化の原因は色々な事象が重なった結果だと推測されます。

今年の夏はアオバズクに翻弄された日々でしたが、私達が生活しているすぐそばで、アオバズクが子育てをし続けていると思うと少し気持ちが安らぎます。

(宇野)